

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	小川 祐太郎	学校名	習志野市立向山小学校
実施学年	5学年	教科	国語
单元名	小学校5年国語「詩を作ろう」		

《学びを深めたいポイント》

- ・詩を書くときの発想力を膨らませること。
- ・友達の作品を見合うことで、認めたりアドバイスしたり活発な言語活動に繋がられること。
- ・文字だけでなくイラストを入れることで、相手によりわかりやすく伝わるような作品に気付くこと。

《SKYMENU 活用のポイント》

- ・作品の見本を「発表ノート」で配付することで、児童の取り組みのスタートから差が出ないようにする。
- ・夏のイメージで出てくる言葉を板書した後に、さらにヒントカードが必要な児童にだけ配付をすることで一人一人が情報の取捨選択をすることができることに繋がられると考える。
- ・Wordと違い、文字のフォントや大きさのある程度の制限をかけることで、作品作りに時間を確保する。
- ・データを児童に配付することによって、教師がワークシートの作成や印刷などの準備をしなくても、全員がタブレット端末上で文字入力の活動を行うことができるメリットが生じる。
- ・全員のデータを画面で共有することもできるので、友達の詩を自分の席で読むことができ意見交換を活発に行うことができると思う。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	<p>1 教師の作品を評価する。</p> <p>幸せだと思える 感じる方がよいも 心地良くと 感じるよと うるさいと 息子の歌声 すぐに聞こえる その言葉のあとに おはよう</p> 	<p>おはよう その言葉よりも はやく聞こえる せみの歌声</p> <p>暑さに負けない合唱団</p> <p>・「発表ノート」を使って、素材の場面を示した資料を教師が配付し、児童が入力する。 ・下書きをしないことで、作品作成の時間を確保できる。</p>	<p>・さまざまなレイアウトの書式を準備することで児童の選択肢を増やせるようにする。 ・見やすいレイアウトについても学級全体で確認することができる。</p>
展開	<p>2 自分の詩を作る。</p> <p>・さまざまな夏の様子から、自分が使いたい言葉を選んでいく。 ・先生や友達からアドバイスをもらいながら推敲していく。</p> <p>3 課題を提出する。</p> <p>・自分の考えをまとめたものを提出箱に提出させる。</p> 	<p>・児童は「発表ノート」に自分の作品を作る。 ・早く進んでいる児童の進捗状況をテレビに映し、どのようなことをまよめたらよいのか参考資料とする。</p> <p>・完成した詩を提出箱に入れることで、提出した児童の資料を閲覧することができる。</p>	<p>・どのようなことを書き込んだらよいのかわからない児童のために夏のヒントカードを提示することで、児童の想像力を膨らませることができた。</p> <p>・完成した詩は、全体で共有することができるので、事前に提出箱を作成しておくといよい。</p> <p>・一画面で、複数人の資料を提示することができるので、それぞれの考えを知ることができる。</p>

<p>まとめ</p>	<p>4 全体で作品を共有する。 ・児童が提出した資料を見合い、付箋で感想を書いて渡す。</p> <p>5 ふりかえりをする T 詩をスカイメニューで作ってみてどんなことを思いましたか。 C 書くより簡単にできることが、わかって良かったです。 C 今回は夏が題材だったけど秋にも作りたいです。</p>	<p>・自分のタブレットで友達作品が見れるので、歩き回るのは意見交換に限られるのが良い。</p>	<p>・児童が良いと思った所やアドバイスをすぐにもらえることで、もう一つ作りたいたいという意欲が高まった。</p>
------------	--	--	---

《実践を振り返って》

- ・「発表ノート」の機能を使うことで、資料準備の時間が大きく削減することができました。
- ・SKYMENUCLOUD を使用することで、文字入力に時間がかかることもあるが、画像を簡単に添付できるメリットを強く感じた。
- ・何度も作ることで操作に慣れるだけでなく児童の発想力を広げることにも繋がるのではないかと思う。紙に書くよりもハードルが低く感じている児童が多いたように感じた。
- ・SKYMENUCLOUD の機能をさらに学び、様々な教科で実践できるように今後にも生かしていく。